

21年セ試確定志願者数は 54万3,979人で、ほぼ前年並み！

現役は増加に転じ、浪人は6年連続減少。現役志願率は過去最高の40.4%

旺文社 教育情報センター 20年11月

大学入試センターはこの程、21年1月17・18日に実施される21年センター試験の確定志願者数を発表した。志願者数は54万3,979人で、20年より594人(0.1%)増え、2年ぶりに微増となった。現役と女子が2年ぶりに増加、浪人と男子は6年連続の減少である。

都道府県別では、山梨・奈良・佐賀・岩手など23都道府県が増加、沖縄・福井・青森・山口など24府県が減少となり、増減地区が2分された格好である。

現役志願率は初の40%超えとなり、40.4%に達した。

なお、リスニングテストにおけるイヤホン不適合者は、2,716人(全志願者数の0.5%)だった。

●志願者数 543,979人(543,385人；594人増、0.1%増)

<内 訳>

- 高校等卒業見込者 431,261人(428,013人；3,248人増、0.8%増)
- 高校等卒業者 106,133人(108,666人；2,533人減、2.3%減)
- 「高認」合格者・その他 6,585人(6,706人；121人減、1.8%減)
- 現役志願率 40.4%(39.3%；1.1ポイント上昇)

○男女別

- ① 男子 313,691人<57.7%>(315,649人<58.1%>)
- ② 女子 230,288人<42.3%>(227,736人<41.9%>)

○都道府県別(出身高校等別による)

① 志願者数が増加した主な都県

山梨(7.0%増)／奈良(3.9%増)／佐賀(3.4%増)／岩手(3.1%増)／鳥取(2.8%増)／福島(2.6%増)／茨城(1.9%増)／石川(1.4%増)／東京(1.3%増)等、23都道府県

② 志願者数が減少した主な県

沖縄(4.6%減)／福井(4.3%減)／青森(4.3%減)／山口(3.0%減)／岐阜(2.7%減)／宮崎(2.6%減)／熊本(2.5%減)／富山(2.4%減)／広島(2.4%減)／香川(1.7%減)等、24府県

③ 現役志願率の高い主な都県

富山(51.3%)／愛知(49.7%)／広島(49.5%)／東京(48.3%)／山梨(48.3%)／石川(47.2%)／群馬(44.5%)／徳島(44.4%)／島根(44.2%)、等

○成績開示希望別

- ① 開示希望者 397,122人<73.0%>／② 開示を希望しない者 146,857人<27.0%>

注1. 都道府県別を除く()内は、20年データ及び20年対比の増減、等。

注2. < >内は構成比率。

注3. 「高認」は高等学校卒業程度認定試験の略。

【特記】

① 志願者数

21年の18歳人口・高卒者数は相変わらず減少するものの、大学・短大への進学率(浪人含む)は55%以上が見込まれる。そうした中、センター試験志願者数は、前年比0.1%増の54万3,979人となった。

② 高卒者減の中、志願者が微増に転じた主な要因

- 20年度の高卒者数の減少率(前年比5.1%減)が例年の2倍程度に急騰したのに対し、来春の高卒者数は例年並みの2%程度の減少に留まると予測される。
- 現役の大学志願率(20年53.5%)のアップが見込まれている中で、私立大のセンター試験参加増(18大学50学部増の484大学1,366学部)と短大の参加増(8短大増の164短大)に加え、国公立大のセンター試験“多数科目負担”を敬遠し、少数科目の私立大センター試験利用入試へ流れる“現役志願者層”の拡大。
- 推薦・AO入試などで年内に大学進学を決めてしまう“早期受験組み”に対し、学習意欲や学力の維持・向上策の一環として、センター試験を活用。
- 普通科での高い進学率(20年卒業者の大学等進学率61.9%)に加え、専門学科や総合学科でも大学等への進学率が高まっている。

③ 高校等卒業見込者(現役)、浪人の志願者数

現役は18・19年と2年連続増加したが、20年は減少。21年は再び増加に転じた。現役志願者数は、過去最高の現役志願率40.4%に支えられ、前年より3,248人(0.8%)増の43万1,261人だった。

一方、浪人は16年以降、6年連続の減少で、10万6,133人(前年比2.3%減)。3年前の18年は、当時の新課程入試を敬遠して17年に浪人を回避したことなどから、前年比15.8%の大幅な減少であったが、今後は2~3%台の減少率で推移するとみられる。

④ 高校の学科別でみた出願状況

志願者のほとんどを占める普通科(志願者の構成比率92.3%)で志願者減となっているが、進学率の高い理数科(同2.1%)や総合学科(同1.7%)などで増加している。高校の多様化が進む中、センター試験志願者層の裾野が拡大していることをうかがわせる。

⑤ 都道府県別でみた主な出願状況

* 志願者数：東京が6万1,860人で突出しており、これに愛知(3万4,717人)、神奈川(3万980人)、大阪(2万9,421人)、埼玉(2万7,707人)、兵庫(2万4,298人)、千葉(2万3,324人)と、20年と同じ顔ぶれが続く。

志願者数の増加は全国47都道府県のうち、山梨・奈良・佐賀・岩手・鳥取・福島・茨城・石川・東京・和歌山・愛知・愛媛・大分・三重・滋賀・千葉・福岡・新潟・大阪・埼玉・長野・北海道・神奈川の23都道府県である。

一方、沖縄・福井・青森・山口・岐阜・宮崎・熊本・富山・広島・香川・秋田・栃木・長崎・岡山・鹿児島・群馬・静岡・山形・宮城・徳島・島根・兵庫・京都・高知の24

府県で減少した。

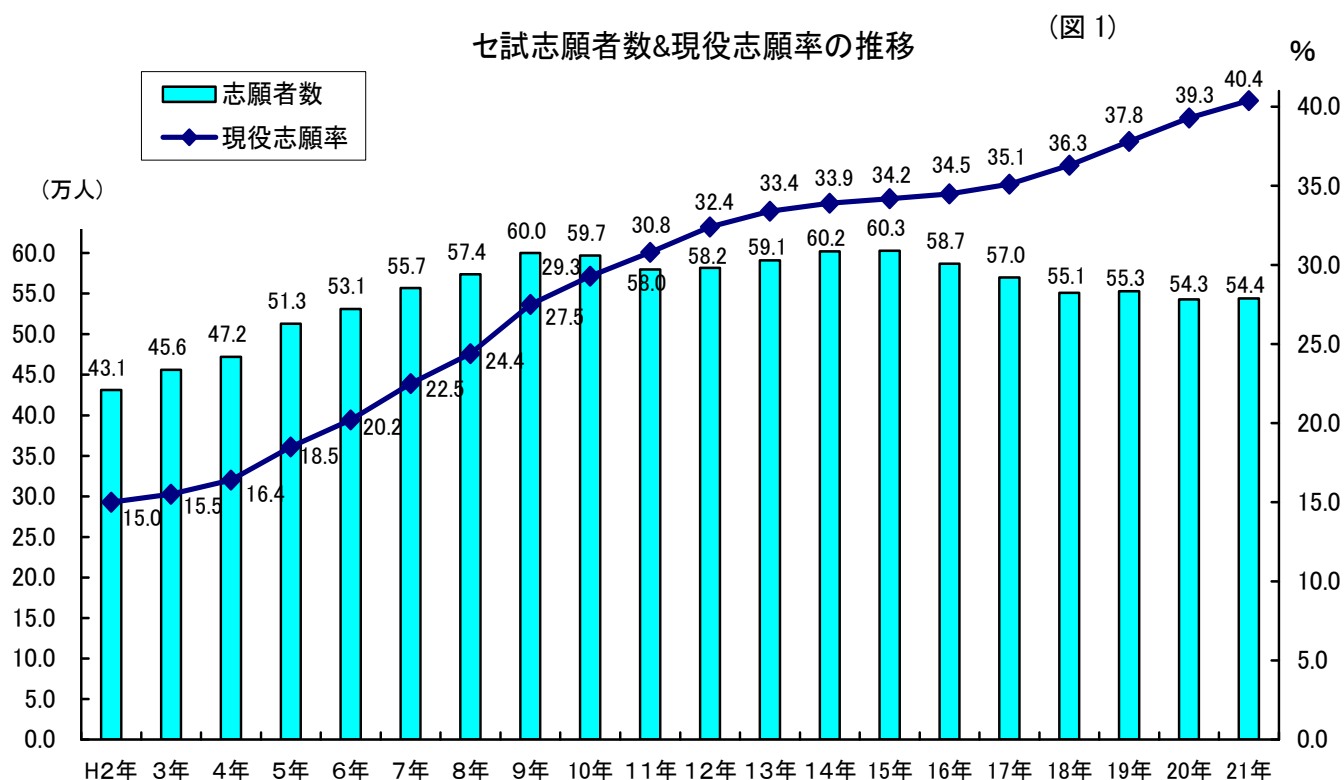
* 現役志願率：富山が 51.3%で、6 年連続の首位をキープ。これに愛知(49.7%)、広島(49.5%)、東京(48.3%)、山梨(48.3%)等、40.4%の全国平均を上回るところが 24 都県に及ぶ。

⑥ 試験成績の本人開示

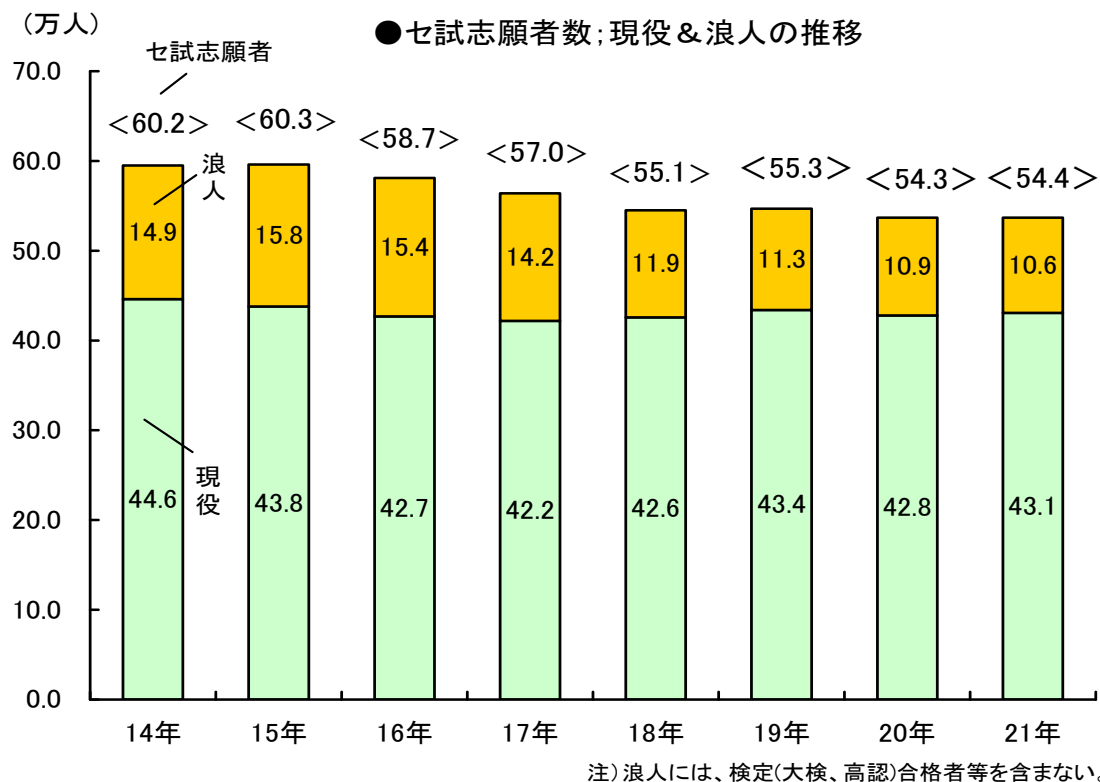
14 年より実施されている試験成績の本人開示(事後開示)については、開示希望者数が 1 万 1,546 人(3.0%)増え、39 万 7,122 人(志願者の 73.0%)となった。

⑦ 英語リスニングテストに対する特別措置

身体障害者等に対する受験特別措置は、英語リスニングテストについても行われる。イヤホン不適合者は 2,716 人(前年 2,553 人)である。また、聴覚障害などで 162 人(前年 162 人)がリスニングテスト免除となる。



(図 2)



(大学・学部/短大)

(図 3)

